

2025 年 2 月 28 日

学校法人山口学園
ECC 国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

2024年度第2回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき
2024年度第2回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1. 実施日時 2025年2月8日(土) 14:00-16:00
2. 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1 号館5階501 教室

3. 学校関係者評価委員 ※順不同

関連業界等関係者

委員長	岸部 雄二 氏	株式会社K スカイ 取締役兼総務部長
企業関係者	五十嵐 駿太 氏	株式会社 With The World 代表取締役
高等学校関係者	貴治 康夫 氏	立命館中学校・高等学校 教員（欠席）
地域関係者	中上 隆雄 氏	済美地域社会福祉協議会 会長
保護者代表	高田 由紀子 氏	国際エアラインコース 2 年生保護者
卒業生代表	杉井 繭 氏	2018 年度海外インターン総合英語専攻卒業
卒業生代表	荒木 駿汰 氏	2020 年度海外インターンホテルコース卒業

同席者

大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 学校長
東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 副校長
榊原 悠佑	ECC 国際外語専門学校 教務課責任者
中務 晃子	ECC 国際外語専門学校 教務課英語チーム
岡 圭一郎	ECC 国際外語専門学校 広報課責任者
杉田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
新谷 優貴子	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
久保 友嗣	ECC 国際外語専門学校 教務課主任（書記）

4. 報告内容

（１） 第 1 回学校評価委員会検討事項の対応について 【各関係部署担当者】

基準 3 教育活動の検討事項に対する活動について 【教務課/榊原】

＜検討①＞目標設定シートの活用

- ・ 目標設定シートの見直し（進路に関する項目を追加）進路と担任間で目標設定シートの内容を

共有し、双方向からアプローチできる体制を構築

＜検討②＞授業評価が高い教員からの知識や経験を還元する機会の導入

- ・教職員会議にて『コミュニケーション概論』を担当する教授力の高い教員による講義を実施
- ・経験談に基づいた科目ゴールの刷り込みや学生との信頼関係構築に関するコツを伝達
- ・教職員会議後にアンケートを実施し、意見交換やディスカッションの機会を創出

＜検討③＞GEA 参加率向上について

- ・大会開催日を春休みから12月へ変更するも参加率は伸び悩み、次年度に向けて再度検討
- ・強制参加ではなく、学生の自主的な参加を促す取り組みが今後の課題

基準4 学修成果の検討事項に対する活動について 【キャリアセンター/杉田】

＜検討①＞学校が望む企業への就職について

- ・専任担当制を導入、ホテル&エアラインともに業界就職率100%を達成

＜検討②＞キャリアデザイン授業の見直し

- ・今春の前期より、職業観の養成、他者理解、多国籍社会で生き抜く力に重点をおいている
- ・ビジネスマナー（メール）や金融リテラシー等の社会人基礎力『人間力』醸成強化を図る

＜検討③＞入社前指導の強化

- ・エアラインコースで導入済みの社会人ビジネスマナー（オンデマンドコンテンツ）を語学系コースにも拡張させ、学生たちが繰り返し学べる機会を増やしていく

基準5 学生支援の検討事項に対する活動について 【教務課/榊原】

＜検討①＞保護者同士のつながり強化

- ・年2回の保護者説明会に対面での就職ガイダンスを併せて実施予定
- ・2025年度より茶話会を導入、保護者間で気軽に交流できる機会を提供していく

＜検討②＞卒業生への発信強化

- ・卒業前、最後のホームルームで担任より『卒業生アプリ』の登録を案内
- ・卒業後の活動報告（業界や職種について）アンケートを実施→アマゾンギフトカードを進呈
- ・学内で受験できる検定（世界遺産検定等）等卒業生にとって有益な情報を案内していく

＜検討③＞英語クラス内での交流機会の導入

- ・英語初回授業でもホームルームで実施した自己紹介、他者紹介のクラスワークを導入

基準7 学生の募集と受け入れの検討事項に対する活動について 【広報課/岡】

＜検討①＞高校との信頼関係構築（職業教育の理解促進、探究授業の活用）

- ・後期で総合的な探究授業の出張講座、大阪府内6つの高校で実施済み
- ・エアラインやホテルの接客マナー、働くための心構えについて職業体験型授業を提供
- ・職業観を育成する進路研究の一環で、高1生向けの高校ガイダンス依頼も増加←対応中

＜検討②＞高校事業の留学生受け入れ体制整備や専門スキルを磨く夜間部について

- ・学園全体の運営体制や将来的な成長性に関わる事項のため、引き続き、学園の課題として協議していく

●コンプライアンス研修に関して 【副校長/東井】

- ・3月中旬『鳩谷・別城・山浦法律事務所』の山浦弁護士による研修を実施予定
研修内容：法令や倫理厳守、ハラスメントに関する実例を交えたコンプライアンス研修
- ・信頼される教育機関として、教職員一丸となって安心できる教育環境の構築に努めていく

＜上記検討事項の活動報告を踏まえ 委員様からのご意見、質疑応答＞

基準4 学修成果について 【五十嵐】

- ・企業が求めている人材の変化について確認

企業が新入社員に求める力として最も重視しているのは「コミュニケーション能力」であり、この傾向は過去20年間大きく変化していない。ただし、コロナ禍を経て「言葉のキャッチボールが苦手」な学生が増加しているとの企業側の声も一部で確認されている。本校では、難関とされるCA職やラグジュアリーホテル等への就職実績も継続しており、これらの企業において採用基準のハードルが下がったと感じられる兆しは見られない【杣田】

- ・学生へ求められる資質・能力について確認

企業からは「イントレプレナーシップ（社内で革新を起こす行動力）」や「アイデア力」を重する傾向も見られるものの、これまで以上に高い語学力を求めているという実感はない。

一方で、学生の自己PRが画一的で個性に乏しいとの指摘が企業側から複数寄せられている。これを受けて本校では、学生会やボランティア活動など、学生が主体的に取り組める機会を学内で積極的に提供し、その経験を通じて得た強みを自己PRに反映できるよう、キャリア指導を強化している。【杣田】

- ・難関と言われる就職先を決めた学生の特徴について確認

難関就職を実現した学生の多くは、自己分析能力が高く、目標達成のために今何をすべきかを理解し、行動できる力を有していた。これらの学生は、語学留学以外にも、CA補講などの課外授業に積極的に参加し、学びへのモチベーションを高めていたことが特徴として挙げられる。【杣田】

基準5 学生支援について 【中上】

- ・地域活動を通じて、様々な人と関わりをもつことで、経験値が高まり、視野が広がり、成長につながる。実際に参加している学生たちは、生き生きとした良い表情で活動している

基準5 学生支援について 【高田】

- ・前回、伝えたことが実施化に向けて検討されている事に正直驚いている
- ・後期は模擬面接や検定試験等で、多忙な毎日を過ごす子どもの様子が気になることもあった
- ・就職保護者会等で指導状況を共有いただくことで、保護者側もサポートしやすくなる
- ・保護者アプリで「保護者も一緒に参加可能」と文言があるとボランティア活動に参加しやすい

基準3 教育活動について 【杉井・荒木】

- ・GEA参加者（観覧者）が向上しない。参加したくない学生へ具体的なヒアリングについて授業期間に開催、授業コマに導入はぜひ進めていくべき

学校行事（スポーツ大会など）のイベントの際にGEAチームを設けてみてもよいのでは

基準5 学生支援について 【杉井】

- ・卒業生LINEで転職活動や検定受験情報を発信してほしい
- ・検定対策で講師陣が推奨する参考書等を掲載いただけると有難い

（2）2024年度学校運営振り返り（募集・教務・進路）

2024 年度からの新たな取り組みについて 【東井】

- ・専門課程韓国語コース 韓国語専攻を新たに開講
- ・総合英語コースに国際ビジネスコースを吸収（総合英語専攻/貿易・国際物流専攻）
- ・通関士プログラム 選択科目（1 年後期～2 年前期）として開講 受講者 5 名
- ・福島県と協定を締結し、官学連携プログラム「つなぐ福島」活動開始
- ・フジドリームエアラインズ様・スターフライヤー様と就職指定校推薦制度を締結
- ・インターコンチネンタル大阪様と企業連携授業を実施
- ・教職員会議を週 1 で実施し「意識共有」の機会を提供

学生募集について 【岡】

- ・国際系の学部がマーケット全体で回復傾向
- ・職業の絞り込みに躊躇、不安を抱く高校生が増えているように感じる
- ・留学経験ができる 3 年制コースを希望する学生が増加している（エアライン・ホテル・英語）
- ・大学編入コース、年々減少傾向
- ・通信制高校生、留学生の入学希望者が激増
- ・2028 年少子化問題 3000 人が減少する見込み、小中学生のアプローチを検討
- ・学校のさらなる特徴（ブランド）の打ち出しが今後の課題

教務、英語教育について 【榊原・中務】

- ・授業アンケート結果 前期の数値より下回った、授業オブザーブなどの対応が必要
- ・成果発表会等で多くの留学生を見ていただける機会を設ける
- ・多国籍を混ぜるミングル教育→「多文化共生理解」の科目の内容、質を高めていく
- ・英検受験者の減少、学校全体で検定合格率を上げることが今後の課題
- ・Anglia Speaking Exams を導入。2024 年度は 93 名が受験

留学について 【新谷】

- ・コースに紐づく留学プログラム→グローバル英語、韓国語、こども教育コースで実施
- ・春期、夏季休暇期間中は全コース学生対象に 4 プログラムを実施
②④夏：セブ 10 名 ②⑤春（予定）：英国 12 名、セブ 10 名、AUS カフェ留学 1 名
- ・ニュージーランド有償インターシップのトライアル（4 月～12 月）を実施
帰国生による成果発表会を次週実施予定、春から出発予定の後輩もプレゼンに参加する
- ・コロナ前に比べると渡航希望者が少ないため、今後も魅力ある留学プログラムを発信していく

就職、進路について【杉田】

- ・内定状況 124 名中 119 名は内定獲得 96.0%（※2025 年 1 月末時点数値）
- ・語学系コースの業界就職率を上げることが、引き続きの課題
- ・留学生求人の確保が急務（単に求人数を増やすだけでなく技人国ビザ取得可能な就職先開拓）
- ・大学編入コース 58 名 国公立で成果を上げている 東京外大編入は初実績となった

（3）2025 年度学校運営について

学科、コース変更点 【大谷内】

- ・グローバル英語コース グローバルチャレンジ専攻開講
東南アジアを中心にボランティア活動やインターンシップが経験できるプログラム
- ・留学生対象コース定員 119 名へ 日本人と留学生が共に学べる環境づくりに力を入れていく
- ・語学、観光系の専門学校マーケットシェア No.1 を目指す
- ・「レジリエンス」を纏った人材を輩出するため、学生時代のうちに安心してチャレンジ&失敗

できる環境を整備していく

英語プロジェクトについて 【中務】

- ・ 共通英語新カリキュラム導入
目標：卒業時に CEFR B1(自立した言語使用者) 以上の英語運用能力を習得する
- ・ 5 段階のレベル別、Elementary～Intermediate レベルの学修者には、専属トレーナーがつく
- ・ 聞く、話す、読む、書く 4 技能を授業内で総合的に強化していく
- ・ 英検や TOEIC 等の資格対策は、English Learning Centre で個別指導を行う

2026 年度に向けての準備 【大谷内】

- ・ 国際キャリア学科、アジア言語学科 職業実践専門課程申請予定
- ・ 全員海外経験
在学中に留学、インターンシップ、海外模擬体験等いずれかのプログラムへ参加し経験を積む
- ・ 学校教育法改正→26 年 4 月から単位制へ

総評 【岸部】

- ・ 協議した内容が具現化され、学校運営改善に向けたキャッチボールがうまく行えている
- ・ ECC 卒業生がロサンゼルス空港へ出向し、現地インチャージで勤務している。
彼女のあきらめない姿勢（レジリエンス）が評価され、米州地区の支配人から出向期間の延長リクエストがあるほど、卒業生たちは世界で活躍している
- ・ 今後も考えて動ける、働ける学生を輩出してほしい

【所感】

年度末の総括として、多方面より改善の手がかりをいただくことができた。

とくに語学・観光系求人数が活況ななか、この人手不足が解消されたのちに

需要の穴埋めでなく、それ以上の人材育成を目指していく必要性を改めて認識する良い機会となった。キーワードとしては、知らない人と会話ができる力、しっかりと自分の考えを話せる力、考えて動ける力の醸成を意識して学生指導に取り組んでいきたい。

卒業生からは、卒業後に得たい情報として、リスキリングにあたっての有益なお知らせや推薦図書ニーズがあることがわかった。

また保護者の立場では、学校との情報共有の内容として、行事の連絡だけでなく、就職に向かう上でどのフェーズにいるのかが分かると、家庭での支援がより円滑になるというご助言をいただくことができた。

上記提案や助言を新年度運営に反映し、より実態に即した学校運営を行っていきたい。

以上